

学校だより

にしとべの丘

Nishi-Tobe no Oka

横浜市立西中学校

2021(令和3)年

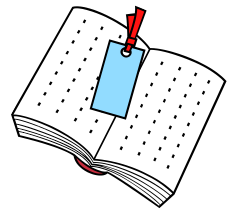
10月29日



読書の秋に寄せて ～ Life with reading

〈学校司書〉

先日、横浜市の学校司書研修がありました。その時に、「Life with reading～読書の秘訣カード」という、有隣堂が研究機関とコラボして作成したカードは27枚あって、それぞれに「自分の本だな」「本との先約」といった本にまつわるテーマと、その説明が記してあります。研修はそれぞれが選んだカードのテーマについて自由に短い話をして、それについてコメントしあうというものでしたが、「本の感想ではない、本にまつわる話」を初対面の方々とするのは、思いのほか新鮮で楽しい時間でした。



私は、「本がきっかけ」というテーマを選んで、こんな話をしました。夏休みに読んだ何冊かの本に、たまたまクラシックやジャズがよく知らない曲がたくさん出てきた。ふと思いついて、スマホの音楽アプリで曲を検索してみると、ほとんどの曲をすぐに聴くことができ、なんて便利になったんだろう！と感動した。曲を聴いてみると、著者を身近に感じられた気がして楽しく、今読んで聴いてみることはまっている。

本を読んでいて知らない曲名に出会ったとき、ネットで検索して聴いてみる、というのは、中学生の皆さんには当たりまえのことかもしれませんが（少なくともうちの大学生の子どもたちは、「普通にする」と言っていました）。考えてみれば私も、これまでたくさんの音楽に本の中で出会ってきましたが、どんな曲かなあ、と空想しながら読み進めることに慣れすぎていて、すぐ検索して聴いてみることに、この夏まで思い至らなかったのです。こんな風に読めるなら、もう一度読み返してみたい、と思いつく本もあります。

なるほど自分もやってみようと、もし思う方がいたら、今おすすめなのは「ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー2」の第2章です。「一生モノの課題図書」というキャッチフレーズまでつけられた前作ですが、この完結編でも、著者ブレイディみかこさんと中学生の息子さんの毎日から、様々なことを考えさせてくれます。前作にも登場したアフリカ系の母娘の、その後のエピソードがこの第2章。タイトルがまさに、「A Change Is Gonna Come」という曲名になっています。どんな曲なのかは、読んで聴いてみてのお楽しみです。作品の中で、ブレイディさんが歌詞を少し解説してくれているのですが、音楽アプリでも YouTube でも、その歌詞をすべて見ることができました。ほんとうに便利になりましたね。読書の秋の楽しみ方も広がります。

ねんせいぼうさいきょうしつ 1年生防災教室

10月20日(水)に1年生全員で横浜市防災センターへ行き、「自分の命を守る自助意識」「お互い助け合う共助意識」の啓発を目的とした「防災に関する体験プログラムおよび防災体験ツアー」を通して、防災について楽しく学び、防災の知識を深めました。

当日は3校時終了後に昼食をとり、貸し切りバスで現地へ行きました。防災センターでは密を避けて3グループに分かれ防災に関するプログラムを体験しました。

① 災害シスター

突然現れた防災に詳しい猫をきっかけに「自助・共助」の大切さを学ぶことができるドラマ仕立ての防災に関する映像を見ました。

② 体験プログラム

絵や記号などが記載してあるコミュニケーションボードを使い、言葉でのコミュニケーションが難しい相手との意思伝達の方法を学びました。

③ 防災体験ツアー

地震シミュレーターでは、震度3から7までの揺れや、東日本大震災や阪神淡路大震災と同じマグニチュードの揺れを体験しました。また、消火器の使い方を想定した体験、家の中で地震や火事が起こった時の行動を考える体験などもしました。学校で体験することができない学びを通して防災の意識が高まった様子でした。

<防災教育担当>



せいとかいやくいんせんきょ 生徒会役員選挙



<防災教育担当>

10月13日(水)、生徒会役員選挙の立会演説会並びに投票を行いました。今回は立候補者が定数通りだったため信任投票という形になりましたが、立候補者、応援者ともに思いのこもった演説を行いました。公正・公平な選挙活動や速やかに開票作業が行われた陰には、選挙管理委員の頑張りがあったことも見逃すことはできません。今年度も次期生徒会本部役員を決める

大切な選挙を全校生徒で行うことができ、とてもよかったです。

食育コラム「食で学ぶ 食を学ぶ」

元横浜市教育委員 長島 由佳

寒さが急に増し、冬の気配を感じるまでになりました。木々の葉も急速に色づき始めています。紅葉やイチョウが町並みに彩りを添えていくのもすぐそこです。

日本では古来より、四季が様々な場面に反映されてきました。年中行事・節句での花や作物などとの関わりや歌の世界の季語など、日本人の五感が季節をリスペクトしている形の現れなのだと思います。

料理の世界でも素材だけではなく器においても四季を大切にします。桜の絵付けや花びら型の器であれば春に、竹の子型の器であれば竹の子が出回る季節に、菊や栗・柿の形や絵付けであれば秋の季節に楽しめます。年中使用できる無地ものであれば、庭先の梅の花や青紅葉・赤く色づいたもみじで季節感を表すなどの心配りを楽しみます。

このようななか、この絵図はいつが季節なの？と感じるものがあります。満開の桜を雲に見立て紅葉を錦に見立てた「雲錦（うんきん）」という色絵にご記憶がある方は多いと思います。お椀の中に赤い紅葉と桜の花びらが同時に描かれていたり、大きな鉢の内外に満開の桜と紅葉が混在したりと、日本人の季節への欲深さ・執念が、型にはめるだけではなく、広い心で年中いつでも共に楽しむことを教えてくれています。春とこの時期に改めて、日本で暮らしてよかったと誇らしく感じる絵図なのです。

食ベるという行為は、皆誰にでも平等に与えられている行為です。成長・健康維持のためだけでもなく、誰にでも、桜と紅葉を愛でて、その美しさを感じる心を育てることを邪魔するものがあってはなりません。

器や箸や箸置きなどに季節感を盛り込んでいる国は、日本ぐらいではないかと言われています。季節季節で揃えるのは収納や家族構成・生活スタイルなど考慮に入れると、どの家庭でも出来ることではありません。しかし、シンプルなものに色の工夫・添え物の工夫などを取り入れる五感を養っていくことは可能だと思います。子どもたちの豊かな力の醸成の一助になることは間違いありません。今は忘れられがちな箸置きなど、身近で、毎日でも使えるものからチャレンジしてみることから始めるのはいかがでしょうか。我が家のダイニング、今月は栗型の箸置き月間であることもお伝えしておきます。

